

2016 長野西国際教養科 NEWS 7月

長野高校SGH善光寺サミット参加(7/7・8)

7月7日、8日と長野高校でスーパーグローバルハイスクール（SGH）の行事である「善光寺グローバルサミット」が行われ、本校の国際教養科から3年7組の近藤真由さんと野口安澄さん、そして留学生の2年7組の劉昕恬さんが招待され出席しました。

7月7日は善光寺の白蓮坊と大本願を会場に、招待された県内および近県のSGH、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）、国際教養科のある高校の代表生徒が各高校の取り組みを発表しました。本校の近藤さん、野口さんは長野西高校の国際教養科の様々な活動を、パワーポイントを使って素晴らしい英語で紹介してくれました。また、昨年授業で作成した英語版長野ガイドマップも参加者全員に配布しました。8日は、長野高校の文化祭の企画として行われた当校のSGHの研究発表をゲスト参加者として聴いてきました。

他校の生徒や留学生と楽しく交流ができ、また各校の発表を聞いて多くのことを学んだ2日間となりました。



【発表する近藤さんと野口さん】

留学生 劉 昕恬 さん帰国

昨年の9月から2年7組のクラスに在籍していた中国からの留学生、劉昕恬さんが、約11ヶ月の滞在を終えて7月13日長野を立ち、16日には無事中国へ帰国しました。

7月11日にはクラスでお別れ会を行い、クラスの全員と別れを惜しみ、2年後の再会を約束しました。日本語がさらに上達し、見た目も考え方もすっかり日本人ようになった劉さんでした。中国ではしっかり勉強して、日本の大学に合格して再び来日してくれることを願っています。お元気で！



クラスで
修了式を
企画



全員で
最後の
写真

国際教養科 1年 高大連携特別授業(7/22)

国際教養科1年生は、今年も信州大学教育学部の小池浩子先生と徳井厚子先生、現代教育コースの学生の皆さん8名に来校いただき、「高大連携授業」として「異文化理解」の授業を受けました。今回は小池先生のお話の後、学生達が立案した授業を実際に受講しました。ある国の人々が写った写真を見て、それが何の場面かを話し合い、資料で確認の後、その写真の中の一人になって自己紹介をするというもので、グループになって協力しながら作業を進めました。

主な感想



- ・グループの人それぞれが様々な考えを持っていて、自分が想像しないような意見が出て驚きました。
- ・班の他の人の意見は自分とは全く違う視点で考えていて、それが面白く感じ、自分の考えをよりいっそう深めてくれました。
- ・ある国について考えるとき、「日本の当たり前」とらわれていると「この人たちはかわいそう」と思ってしまいます。広い視野で物事を見つめることができれば、異文化理解に近づけるのではないだろうか。
- ・発展途上国について考えるとき、無意識に不便なところや大変なところばかり見て、他の視点から見えていませんでした。



写真を見て感じたことを書き込もう！

主な感想

いろいろな視点から物事を見ることの大切さを学びました。

- ・私たちにとって不自由に見える他国の人々の生活が、その国の人にとっては幸せであるかも知れないという意見には頷くしかなかったです。
- ・幸せの価値観が違うとしても、世界には必ずたくさんの方が助けを必要としています。そういう人達を少しでも幸せにしてあげることができるよう、自分の知識をもっと深めて、たくさんの視点からものを考えることができると思います。
- ・「同情」ではなく本当の意味でさまざまな国で生活している人たちの考え方に「共感」することができるようになりたいと思いました。



グループごとに発表

(7月③)

中学生体験入学でのお手伝い(7/29)

7月29日に行われた体験入学で、国際教養科の生徒がお手伝いをしました。まず2年7組の生徒5名が全体会で、国際教養科の紹介プレゼンをパワポを使って行い、その後、体験授業の後に、1年7組、2年7組の生徒2名ずつ計4名が一班となって、各教室で国際教養科の説明を行いました。

2年生のプレゼンはすべて英語で行うもので、国際教養科の行事や授業の様子を写したスライドを見せながら、一人一人自分の担当の項目について発表しました。堂々と落ち着いて、大変きれいな英語で発表ができました。また、体験授業での説明は、用意した教科書や写真を見せながら、国際教養科の特徴をわかりやすく発表することができました。終わってからも中学生からの質問に丁寧に答えてあげることができました。



全体会でのプレゼンテーション



各教室での交流会

ドイツ語スピーチコンテスト(7/31)

7月31日(日)、「全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」が埼玉県の獨協大学で開かれ、朗読の対話部門に2年7組の澁谷純太郎君と南風原桃子さんが出場しました。2人は50組(100名)の応募の中から最終の6組(12名)に選ばれての出場でした。父と娘の滑稽なやりとりを流ちょうなドイツ語で演じました。ベスト3には入れませんでしたが、見事入賞という結果になりました。



【発表する澁谷君と南風原さん】